（ 様式D－２ ）
（ 別　　紙 ）

令和６年度　海外派遣研究員研究報告書

令和　６年　１０月　３１日

日本大学理事長　　殿
日本大学学長　　殿

所　　属　　理工学部
資格・氏名　　准教授・山﨑　晋

■本報告書の内容を公表することは，了承しております。
□本報告書の内容を公表することは，差し控えください。
※いずれかにチェックし(■)提出すること

令和６年度海外派遣研究員（　短期Ｂ　）の研究実績を，下記のとおり報告いたします。

記

１　区　　分　　短期Ｂ

２　研究課題

北欧の中心市街地におけるパブリックスペースの活用実態と空間特性に関する調査研究

３　派遣期間　　西暦　2024　年　8月　2日　～　2024　年　8月　30　日

４　派　遣　先　　フィンランド・スウェーデン・デンマーク・エストニア

５　研究目的

道路や広場等の公共空間は、主に国や自治体により整備・管理されているのが一般的であり、市民はその空間ごとに定められた目的や規則に従って利用することが多い。その一方、まちづくりへの市民の意識の高まりに伴い、公共空間の清掃等の維持管理への市民参加の機会も増加しており、市民・行政・民間企業が協働しながらまちなかの賑わいづくりを進めている事例も増えている。さらに近年、世界中の多くの都市で街路空間を車中心から人中心の空間へと再構築し、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場づくりや取組みが進められはじめている。

そこで本研究では、アメニティや福祉面で先進的な北欧の中心市街地を対象に、歩行者空間や広場等のパブリックスペースの整備実態と空間特性を明らかにすることを目的とする。本研究では歩道や街路等の公共空間のみならず、街路沿いの民間空地や店舗テラス、地域の居場所として公共的に活用されている図書館（屋内公共施設）も含めてパブリックスペースとして扱い、公共空間と民間空地、公共施設それぞれの整備実態とこれらの一体的な空間整備や活用状況を明らかにする。

（ 様式D－２ ）

6　研 究 概 要

① 研究の方法

北欧の主要都市であるコペンハーゲン（デンマーク)、ストックホルム（スウェーデン)、ヘルシンキ・ロヴァニエミ（フィンランド)、タリン（エストニア）の中心市街地の通りや広場を対象に空間観察調査を実施した。

さらに、ヘルシンキとコペンハーゲンにおいては屋内のパブリックスペースとして公共図書館も調査対象とし、実測調査および空間観察調査を実施する。加えて、道路空間の行政管轄部署や図書館担当者に対して、対面または電話・メールでのヒアリング調査を実施した。

② 渡航先での活動内容

現地コーディネーターや担当部署への基礎調査を元に、以下の場所で調査を実施した。

通りや広場に関する調査について、行政へのヒアリング調査では、空間の利用制限等のルールや都市空間の管理面、オープンテラスの設置可能エリアの範囲や利用緩和条件等を調査した。現地での実測調査では、路面舗装状況、沿道店舗の有無、テラスやベンチの設置状況等を調査した。空間観察調査では利用者の活動（休む、飲食する、会話する等）を調査し、イベント等の実施されている場合はテントの配置状況と利用者の活用状況を調査した。

屋内パブリックスペースとしての図書館に関する調査について、図書館担当者へのヒアリング調査では、館内の各スペースの利用制限等のルールや利用状況を調査した。現地での実測調査では、各スペースの広さや機能・用途、ベンチの設置状況等を調査した。空間観察調査では利用者の人数や活動状況（読書する、休む、会話する、飲食する等）を調査した。

月日	都市名	調査方法	調査対象
8/4～8/6, 8/8, 8/11	ヘルシンキ	実測調査および空間活用観察調査	マーケット広場およびエスプラナーディ公園 ヘルシンキ中央図書館Oodi
8/7	ロヴァニエミ	実測調査および空間活用観察調査	ラッピアホール，ローディズスクエア
8/9, 8/10	ヘルシンキ	担当部署・担当者へのヒアリング調査	ヘルシンキ道路管理部局 ヘルシンキ中央図書館Oodi
8/12, 8/13	タリン	実測調査および空間活用観察調査	ラエコヤ広場、フリーダムスクエア
8/14～8/18	ストックホルム	実測調査および空間活用観察調査	セルゲル広場、キングスガーデン
8/20～8/26	コペンハーゲン	実測調査および空間活用観察調査	ストロイエ、ニュートゥ広場、ガンメルトゥ広場、アマートゥ広場、 コペンハーゲン中央図書館
8/27, 8/28	コペンハーゲン	担当部署・担当者へのヒアリング調査	コペンハーゲン道路管理部局 コペンハーゲン中央図書館

7　研究結果・成果

本稿では、滞在期間が長くヒアリング調査も実施できたヘルシンキとコペンハーゲンの調査結果を中心に、屋外公共空間である「通り・広場」と屋内公共空間である「図書館」に分けて報告する。

１）通り・広場に関する調査結果

ヘルシンキの行政ヒアリング調査では、空間の利用制限等のルールや都市空間の管理面、利用緩和条件等を調査した。オープンテラスの設置可能範囲は市内中心市街地の全てではなくエリアを指定しており、設置規定や図面例より設置寸法や構造条件を把握した（図１）。

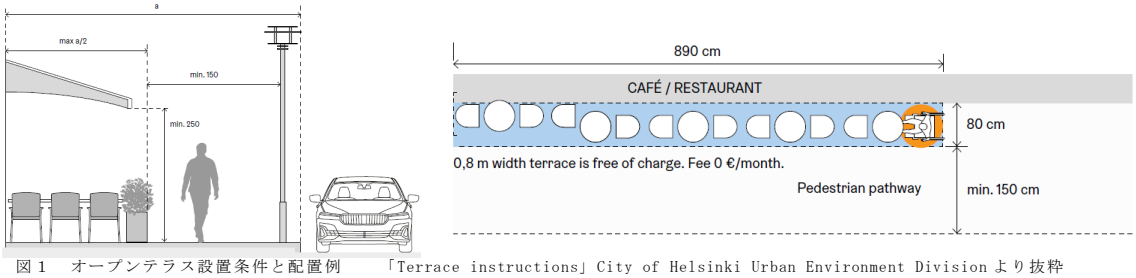


図１　オープンテラス設置条件と配置例　「Terrace instructions」City of Helsinki Urban Environment Division より抜粋

コペンハーゲンにおいても、ストロイエおよび周辺広場を中心に、沿道沿いの店舗に設置できる商業目的の屋外テラスや商業目的以外に滞在が可能な場所等の範囲や設置ルール等を把握した（図２）。



図２　ストロイエ周辺の占用・滞在の可能エリア　出典：コペンハーゲン市資料「Udeservering（屋外席）2023.12.4」を元に筆者加筆

現地での実測調査では、沿道店舗の有無や飲食店・物販店等の店舗種類、テラスやベンチの設置状況や路面舗装状況等を調査した。飲食店の前面では店舗からはみ出して設置されたテーブル・いすに加え、パラソルやウッドデッキ、プランター等の屋根・床材・植栽等でテラス席を区画している様子を捉えた。（写真１・２）

空間観察調査では、休む、飲食する、会話する等の利用者の活動や空間活用状況を調査した。店舗前のテラス席のみならず、前面に店舗がない場所のベンチについても休息や会話する等、通行だけでなく滞在のために活用されている様子を把握した。（写真３・４）



写真１　実測の様子（ストロイエ）



写真２　ヘルシンキ中央駅周辺のテラス席



写真３　エスプラナーディ周辺のテラスの活用状況



写真４　アマートゥ広場周辺のテラスの活用状況

２）図書館に関する調査結果

北欧では日照時間が短く屋内空間もパブリックスペースとして機能している。特に北欧の図書館では、静寂が求められる日本の図書館とは異なり、「会話と議論の場」であることが法律（公共図書館サービス法）に明記されていることをヒアリング調査により把握できた。「Public Library of the Year」を受賞したことで世界から注目を浴びているヘルシンキ中央図書館「Oodi」のヒアリング調査では各フロア構成等を把握した。レストラン、映画館、本の返却スペースを備える１階、自然光を入れずクリエイティブスペースや地域住民が会話やゲーム等をする階段スペース等を備える２階、波打つ天井が空間全体を包む「Book Heaven」と呼ばれる開放的な３階で構成されておりフロアによりコンセプトを変えている（図３）。実際の空間活用も、２階クリエイティブスペースでは工作・創作する様子や地域住民が会話・ゲームする様子、３階では「本を読む場所」として機能設計された空間や、階段やソファ・いす等を配置しており、室内にいながらも開放的で公園のようなパブリックスペースとして使用されている様子を把握した（写真１～４）。コペンハーゲン中央図書館においても子どもの遊び場（２階）や議論しながら学習できるスペース（３階）を確認した。

本事例からも静寂な場と賑やかな場の双方を備えた図書館計画を把握でき、図書館が屋内のパブリックスペースとなるためのヒントを得ることができた。

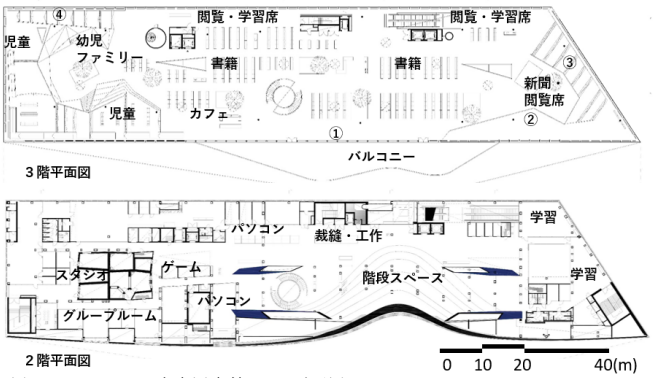


図３　ヘルシンキ中央図書館 Oodi 平面図
（ALA ホームページ図面を元に筆者加工）

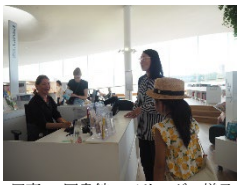


写真５ 図書館ヒアリングの様子

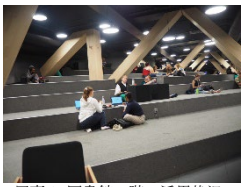


写真６ 図書館２階の活用状況
（階段スペース）



写真７ 図書館３階の活用状況
（図面③）



写真８ 図書館３階の活用状況
（幼児・ファミリーゾーン）





図４　ヘルシンキ中央駅の現状（左）と将来案（右）
画像出典：都市中心部の交通システム計画　City Of Helsinki Urban Environment, 2024.7.3

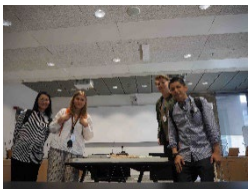


写真９　ヘルシンキ調査メンバー
（右が筆者、左は通訳）

※　写真は全て筆者撮影、

ヘルシンキ市では駅前周辺の再整備案を始め将来的なパブリックスペース整備方針（図４）を、コペンハーゲン市でも次年度よりオープンテラスの設置条件等が変更予定であることも把握できた。都市空間の活用については発展途上であるため、今後も継続的に公共空間活用に関する情報収集と資料作成を行っていきたい。

以　上